



学校だより

調布市立調布小学校
令和8年9月30日(水)
校長 安藤 力也

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chowa-sho>

Mail: chowa-sho@chofu-schools.jp

秋の夜長に

副校長 佐久間 信介

「実りの秋」「読書の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」……。秋には、様々な呼び名があります。それだけ、この季節は、自分自身や大切なことと向き合う時間を与えてくれるように感じます。夜が少しずつ長くなる「秋の夜長」。慌ただしい日々の歩みを少し緩め、ゆっくり考える時間に使いたと思います。

私の好きなことの一つに、植物を育てることがあります。植物は、種をまいたらすぐに花を咲かせるわけではありません。芽が出たことを喜び、葉が増えたことに気づき、つぼみを見付けて花が咲く日を楽しみに待ち、やがて実りの時を迎えます。実りだけでなく、そこに至るまでの時間も、かけがえのない喜びなのかもしれません。そう考えると、子どもたちの成長も、それによく似ているように感じます。

私たち大人は、子どもたちに「より良く育ってほしい」と願います。だからこそ、励ましたり、手を差し伸べたり、ときには背中を押したりすることもあります。しかし、ときには子ども自身が考え、やってみようとするまで、見守ることもあります。その時々で、どちらが良いのか迷うこともあるのではないのでしょうか。

効率や結果が重視されることの多い社会ですが、それらが大切な場面である一方、「待つ」ということにも、子どもの成長を支える大きな意味があります。子どもは、挑戦しては立ち止まり、不安になると安心できる人や場所を確かめながら、また一步を踏み出し、自分の世界を少しずつ広げます。背中を押すことだけでなく、安心して戻ってこられる場所であることも、大切な関わり方なのではないのでしょうか。

稲穂や果実が、それぞれ異なる時期に実るように、子どもたちの成長にも一人一人のペースがあります。新しいことにすぐに挑戦できる子もいれば、じっくり考えてから一步を踏み出す子もいます。人前で表現することが得意な子もいれば、静かに友達を支えながら力を発揮する子もいます。同じ年齢であっても、その歩みはそれぞれです。子どもの小さな変化に気づき、その歩みを信じ、必要なときには支える。そして、ときには子ども自身が考え、選び、動き出す時間を大切にする。その積み重ねが、やがて主体性や自立につながっていくように思います。

保護者の皆様も、これまでお子さんの成長を願い、様々な場面で悩み、考え、支えてこられたことと思います。学校もまた、子どもたちの成長を願い、日々の姿に目を向けながら、ときには悩み、ときには喜び、ともに歩んでいます。この秋の夜長、そこに至るまでの小さな努力や挑戦、立ち止まる時間にも目を向けながら、私たちも改めて一緒に考えてみませんか。

2学期は、大きな行事が複数控えています。一つ一つの経験を通して、子どもたちが安心して挑戦し、時には立ち止まり、また自分の力で一步を踏み出していけるように、学校と家庭が連携しながら、ともに成長を見守り、その実りを一緒に喜び合えることを願っています。

